

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

学科別専門科目 143

油絵学科

・ 絵画表現コース		
2890	絵画表現基礎 IA	144
2900	絵画表現基礎 IB	145
2910	絵画表現 IIIA	146
2920	絵画表現 IIIB	147
2930	絵画表現 IVA	148
2940	絵画表現 IVB	149
3030	絵画表現基礎 II	150
3040	絵画表現基礎 III	151
3050	絵画表現基礎 IV	152
・ 日本画表現コース		
3100	日本画基礎 I	153
3110	日本画基礎 II	154
3120	日本画基礎 IIIA	155
3130	日本画基礎 IIIB	156
3140	日本画基礎 IVA	157
3150	日本画基礎 IVB	158
3160	日本画基礎 V	159
3250	日本画研究 I	160
3260	日本画研究 II	161
3270	日本画研究 III	162

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

芸術文化学科

・ 芸術研究コース		
3280	芸術研究学 I	163
3290	芸術研究リサーチ	164
3300	芸術研究特殊講義 I	165
3310	芸術研究学 II	166
3320	芸術研究コンセプト	167
3330	芸術研究特殊講義 II	168

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

デザイン情報学科

・ デザイン総合コース		
3420	デザイン総合研究 I	169
3430	デザイン総合研究 II	170
3440	デザイン総合研究 III	171
3450	デザイン総合研究 IV	172
3490	情報形成デザイン IA	173
3500	情報形成デザイン IB	174
3510	情報形成デザイン IIA	175
3520	情報形成デザイン IIB	176
3580	環境形成デザイン IA	177
3590	環境形成デザイン IB	178
3600	環境形成デザイン IIA	179
3610	環境形成デザイン IIB	180
3670	社会形成デザイン IA	181
3680	社会形成デザイン IB	182

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

教職に関する科目 183

1640	美術教育法 I	184
1650	美術教育法 II	185
1660	美術教育法 III	186
1670	美術教育法 IV	187
1680	工芸教育法 I	188
1690	工芸教育法 II	189
1600	教育原理 I	190
1590	教師論	191
1610	教育原理 II	192
1620	教育心理学	193
1900	特別支援教育	194
1720	道德教育の理論と方式	195
1910	総合的な学習の時間の指導法	196
1730	特別活動の理論と方法	197
1630	教育方法	198
1740	生活指導の理論と方法	199
1750	教育相談論	200
1770	教育実習 I	201
1780	教育実習 II	202
1790	教育実践の理論と方法	203
2100		
2110		
2270	教育実践演習 (中・高)	205
1800	介護等体験	206

学科別専門科目

科目名	絵画表現基礎 I A						
授業コード	2890	授業科目名	絵画表現基礎 I A			担当者	教民阿 仁井、講繁木講隆小 龍清講昌山、こ 範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師つ 明吉、教授幸伊、講泰木師由小師己坂師太島師講え 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身の周りの生活空間に注目し選び出した植物や器物などを対象に「静物画」を制作する。作者の興味を基にした取材を通して、静物の構造や環境性の把握、明暗と色彩の関係、構成や構図と言った画面の内外への造形的視点を養うと共に、油彩絵具やアクリル絵具を用いた制作を实践し、各描画材が持っている特性や色彩の扱いを体得しながら独自の絵画表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 「静物を描く」

1-1 植物や器物などの静物を対象に様々な視点から取材をする。

1-2 1-3につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。

1-3 植物や器物などの静物を対象に油彩またはアクリルで制作する。15号のキャンバス1点。また、作品制作に関する記述文を200～400字以内にまとめる。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎 IA・II 2021 年度』の「絵画表現基礎 IA」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021 年）

○学習指導書

『絵画表現基礎 IA・II 2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021 年）

【その他】

初學者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 I B						
授業コード	2900	授業科目名	絵画表現基礎 I B			担当者	教民阿仁井、講繁木講隆小、龍清講昌山、こ 範川、講今藤仁村、美島、講本、郎山、師つ 明吉、幸伊、講泰木師由小師己坂師、太皇師講え 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日頃目にしている物が、モチーフとして目の前に置かれることで日常的な用途の意味から切離され、光の反射によって造形物としての純粋な形、色、質感、性質が浮び上がります。
この授業ではモチーフを通してそれらを捉えることから始まり、対象物と向き合いながら、そこにおける自らの関心や視点を探ります。

【課題の概要】

○面接授業課題「静物を描く」

1-1 組まれたモチーフをデッサンまたはドローイングする。描画材自由

1-2 組まれたモチーフを油彩またはアクリルで制作する。15号キャンバス

【授業計画】

○面接授業

第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
第4日	午前：前提講義及び制作	午後：制作
第5日	午前：制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画表現 III A						
授業コード	2910	授業科目名	絵画表現 III A			担当者	教民阿仁井、講繁木講隆小、龍清講昌松、え 明吉教授幸伊、講泰木師由小師己坂師太皇師講品渡師 浦、教授、師介家、講真、講琢、講健、講繁本、こ 三授仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子村山師つ
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに人物や自然を対象とした制作を行う。人間や自然は、最も普遍的なテーマであり、絵画の歴史とともに描かれてきた。身近な人物や自然をじっくりと観察し、そこで得られた発見を通して、それぞれの表現に結び付けていく。

【課題の概要】

- 通信授業課題「観察と表現」
 1-1 「気になる人」をクロッキーまたはドローイングをする。
 1-2 「1-1」を基に、エスキースを制作する。
 1-3 「1-2」で制作したエスキースを基に、油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

- 通信授業
 学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA 2021年度』の「絵画表現ⅢA」を参照。
 教科書『絵画の材料』および教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
 2年次～
 ○履修条件
 油絵学科に所属していること。
 ○備考
 絵画表現コース必修科目。

【教材等】

- 教科書
 『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
 『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
 『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）
 ○学習指導書
 『絵画表現ⅢA・ⅣA 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 IV A						
授業コード	2930	授業科目名	絵画表現 IV A			担当者	教民阿 仁井、講繁木講隆小 龍清講昌松、え 明吉教授幸伊、講泰木師由小師己坂師太皇師講品渡師 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講繁本、こ 三授仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子村山師つ
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。今日の絵画においては、さまざまな空間表現が試みられている。この科目では植物と室内風景をモチーフに、それぞれの求める空間がどのようなものなのか、描く事で確認することが目標である。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○通信授業課題「空間と構成」

1-1 植物と室内をクロッキーまたはドローイングをする。

1-2 1-1を基に、植物と室内を組み合わせたエスキースを制作する。

1-3 エスキースを基に、植物と室内を組み合わせた油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA 2021年度』の「絵画表現ⅣA」を参照。

教科書『絵画の材料』および 教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画表現ⅢA・ⅣA 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現基礎 II						
授業コード	3030	授業科目名	絵画表現基礎 II			担当者	教民阿仁井、講繁木講隆小、龍清講昌山、こ 範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師つ 明吉、教授幸伊、講泰木師由小師己坂師太島師講え 浦、教授、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

この課題では「人を描く」ことがテーマとなる。対象として「人」を観察すると色、光、形など、目の前の「人」からは色々な要素が見えてくる。「人」はとてもオーソドックスな対象であるが、決して色褪せることのない多様な要素を持つ絵画の代表的な題材の一つである。各人が自分の視点を通して制作に取り組み、それぞれの表現につながる発見を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 「人を描く」

1-1 自画像、または身近な人を様々な視点から取材する。

1-2 1-3の制作につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。

1-3 自分又は身近な人を対象とし、油彩またはアクリルで制作する。15号～20号のキャンバス1点。作品制作に関する記述文を200字～400字にまとめる。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎 IA・II 2021年度』の「絵画表現基礎II」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『絵画表現基礎 IA・II 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

初學者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 III						
授業コード	3040	授業科目名	絵画表現基礎 III			担当者	教民阿仁井、講繁木講隆小、龍清講昌山、こ 範川、講今藤仁村、美島、講本、郎山、師つ 明吉、幸伊、講泰木師由小師己坂師太島師講え 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

美術史の中において人物を中心テーマとして描かれている作品は数多くある。何故、人を描くのか？それは一番身近なモチーフであり人間が人間に興味と関心を持つ存在だからである。長い美術史において様々な画家が独自のスタイル（個性、世界観、感性）をどの様に築き表現してきたかを注視し、自分らしい表現とは何かを考え、それぞれの個性を重視する。そして前後半通し（6日間）十分な時間を使い、自由に絵を描く楽しさと難しさを体験する。

【課題の概要】

- 面接授業課題「人物を描く」
1-1 人物(ヌード)1名を配置し、制作する。20号キャンパス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。
1-2 人物(着衣)1名を配置し、制作する。20号キャンパス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。

【授業計画】

- 面接授業
第1日 オリエンテーション・前提講義→クロッキー・エスキース→油彩制作（アクリル可）
午前：裸婦 午後：着衣
第2日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第3日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第4日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第5日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第6日 制作 午前：裸婦 午後：着衣→講評
※ 上記の日程は、開講時期により異なる場合があるために、スクーリング持参物冊子を参照すること。

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1年次～
○履修条件
油絵学科に所属していること。
○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。
「絵画表現基礎IB」を同時に履修する場合は「絵画表現基礎IB」を先に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 I						
授業コード	3100	授業科目名	日本画基礎 I			担当者	重政啓治教 子神彌佐 晃井佳世星 一井和師田雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で用具を揃える、扱うといった初歩的なことから作品の制作をする準備から完成までの工程体験を中心に学ぶ。また日本画特有の骨描きやたらし込み、掘り塗り等の表現法や制作に必要な用法習得を目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画を描く」
日本画の用具用材の紹介をもとに与えられたモチーフを使い、F15号以上の画面への紙本彩色を通して用具の扱い方および制作工程の基礎となる準備から完成までの工程を体験する。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：用具解説／午後：制作のためのデッサン
第2日 午前：デッサン／午後：大下図制作
第3日 午前：骨描き／午後：下地作り
第4～5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
日本画表現コースの学生は初年次に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 II						
授業コード	3110	授業科目名	日本画基礎 II			担当者	重政啓治 子神彌 晃講師、 井佳世 師和 一講 師田 星 室 雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で必要な写生と言われるデッサンの導入として、モチーフの観察や捉え方、その描写する方法などの本画制作に必要な記録法について学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

- 通信授業課題1「日本画のデッサン」
モチーフを良く見て観察し、画用紙に日本画を描くために必要な資料としての鉛筆デッサンをする。
・部分的、クロッキー的、記録的な要素を踏まえたデッサンをする。
・細密描写をする。
・明暗、立体感をともなった細密描写をする。
- 通信授業課題2「筆を使う」
筆の特性や使い方をすることを目的に日本画筆を用いてデッサンをする。
・筆を用いて墨で描く。
・筆を用いて彩色する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎II・日本画研究I 2021年度』の「日本画基礎II」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1年次～
- 履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
- 備考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

- 教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）
- 学習指導書
『日本画基礎II・日本画研究I 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

科目名	日本画基礎 III A						
授業コード	3120	授業科目名	日本画基礎 III A			担当者	重政啓治教 子神彌星 晃講師、 井佳世講 師、和師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

線を描くことは日本画では重要な位置を占める。その線は様々な描き方や表情を生むことができるが、描く、引く筆を使いこなす力を養うことも大切である。本授業では線の美しさや勢いのある線の練習をおこない、筆を扱う力を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「墨で描く」
筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドウサ引き）などを使い分けたくさんの線描をおこなう。又、筆を使った線描法でデッサンをする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2021年度』の「日本画基礎ⅢA」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎I～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

科目名	日本画基礎 III B						
授業コード	3130	授業科目名	日本画基礎 III B			担当者	重政啓治教 子晃神彌星 井佳和世室 一師和田雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

古典模写をおこなうことで作品の鑑賞も含め、描写の工程、描写法などを見て、日本画の絵具がどのように扱われ使用されて来たか、また様々な技法や様式を検証することを目的とする。そのために現状模写として描き再現することで、基本としての日本画素材を扱う方法や技法の追求もあわせておこなう。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典模写」
古典の模本をもとに線描による模写と彩色による模写をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作
第2日 午前：制作／午後：制作
第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
第4日 午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作
第5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎I～V」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 IV A						
授業コード	3140	授業科目名	日本画基礎 IV A			担当者	重政啓教 子神彌 晃井佳世 一師和師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身近な人を題材に形態として、人の骨格、動き、自然造形の美しさを探り、人から受ける内面性を把握しながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求することを目標とする。

【課題の概要】

- 通信授業課題 人物を描く
身近な人、または自己をモデルにクロッキーおよびデッサンをする。また、それをもとに日本画制作をする。
- ・人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
 - ・身近な人や自己をモデルに身体のデッサンをする。
 - ・クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2021年度』の「日本画基礎ⅣA」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとに授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

科目名	日本画基礎 IV B						
授業コード	3150	授業科目名	日本画基礎 IV B			担当者	重政啓教 子神彌 晃井佳世 一師、講佳和 師、講佳和 師、講佳和 師、講佳和
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、人から受ける内面性を探りながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

【課題の概要】

- 面接授業課題「身体を描く」
・身体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

- 面接授業
第 1 日 午前：前提講義およびデッサン／午後：デッサン
第 2 日 午前：デッサン／午後：デッサン
第 3 日 午前：準備・下図・制作／午後：制作
第 4 日 午前：制作／午後：制作
第 5 日 午前：制作／午後：制作
第 6 日 午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
2年次～

- 履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

- 備考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎I～V」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 V						
授業コード	3160	授業科目名	日本画基礎 V			担当者	重政啓治教 子晃神彌星 井佳世、講 師一和、師 田雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶために、指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること、彩色することをおこないつながりながら水や支持体がもたらす表現の可能性を様々な手法を用い体感し、構築すること、表現をすることを研究することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題

1-1 制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。

2-1 静物をモチーフにスタンプでデッサンする。

2-2 組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材とともに 3 種類選択し、デッサンする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2021 年度』の「日本画基礎Ⅴ」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

日本画表現コース必修科目。

初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021 年）

【その他】

科目名	日本画研究 I						
授業コード	3250	授業科目名	日本画研究 I			担当者	重政 啓治 教 子 晃 神 彌 星 井 佳 師 世 室 一 師 和 田 雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに通信授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

- 通信授業課題1 制作工程1
 - ・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
 - ・興味深い場所や、特徴のある視点で選んだ対象をデッサンする。
 - ・風景をモチーフに、色を用いてデッサンする。
- 通信授業課題1 制作工程2
 - ・描いたデッサンをもとに小下図、大下図制作、本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
 学習指導書『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ 2021年度』の「日本画研究Ⅰ」を参照。
 教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」を参照。
 教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1年次～
- 履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
- 備考
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究Ⅰ～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

- 教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）
- 学習指導書
『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

科目名	日本画研究 II						
授業コード	3260	授業科目名	日本画研究 II			担当者	重政啓教 子神彌 晃井佳世 一師和師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）						

【授業の概要と目標】

日本画の制作工程、日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに面接授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題 「日本画の制作工程」
風景をモチーフに写生、小下図、大下図の工程研究を踏まえ日本画絵具を使って、F15号の紙本着彩をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義および制作解説／午後：制作のための風景デッサン
第2日 午前：デッサン／午後：デッサン
第3日 午前：下図、下地作り／午後：制作
第4～5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作、講評
※ 学外見学あり。第1日、第2日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画研究 III						
授業コード	3270	授業科目名	日本画研究 III			担当者	重政啓治教 子神彌星 晃講師、 井佳世、 師和講 一師師田 師雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために墨を使って制作する。付立てや風景等を題材に描いたものをもとに墨で大作を通して、独自の視点で捉えることと水がもたらす表現の幅がどのような可能性を示すかを追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題 「墨を使つての制作工程」
墨を使つて様々なデッサン、それを使つて本画へのプロセスとしての小下図、大下図の追求を通して、墨で大作を描く。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義および手本学習 午後：手本からの学習
第2日 午前：制作プロセス、デッサン 午後：デッサン
第3日 午前：デッサン 午後：デッサン、中間講評
第4～5日 午前：墨による制作 午後：墨による制作
第6日 午前：墨による制作 午後：講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究学 I						
授業コード	3280	授業科目名	芸術研究学 I			担当者	田村裕教 金子伸 二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

〔概要〕 芸術研究の前提となる「芸術」及び「作品」の概念とその成り立ちを理解し、造形を文化的・社会的な事象として研究するための視点を身につける。

〔目標〕 自身の鑑賞体験を、作品・鑑賞者・美術館の3要素を用いて説明できること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

〔レポート〕 美術館の空間や展覧会の構成と美術作品の鑑賞体験との関係について考察する課題。

○通信授業課題 2

〔レポート〕 美術館と博物館における作品・資料展示の特質について考察する課題。

【授業計画】

教科書の I 及び III により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

- ・ I ミュージアムというトポス（ミュージアムでなぜしゃべってはいけないの？／仏像を拝まなくていいの？／ミュージアム-作品の生まれるところ／博物館と美術館-文化を語る二枚舌の構造／ミュージアムと博覧会・展覧会-だれのため？ だれが見たのか？／ミュージアムという居場所）
- ・ III ミュージアムに行こう（世の中とつながりたいミュージアムの考えていること／ミュージアムの展示と解説-聞く、読む、そして観る／デザイン・ミュージアムはどうやって鑑賞するの？／みんなで一緒に鑑賞するには-ミュージアムでの鑑賞と鑑賞支援／大学とミュージアム-学ぶ、見せる、研究する）

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。

【教材等】

○教科書

木下直之編『未来を拓く人文・社会科学シリーズ 16 芸術の生まれる場』（東信堂 2009 年）

○学習指導書

学習指導書『芸術研究学 I 2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021 年）

【その他】

科目名	芸術研究リサーチ						
授業コード	3290	授業科目名	芸術研究リサーチ			担当者	田村裕教 金子伸 二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

造形芸術の研究やライティングに必要な文献・Web情報の探索と活用の方法、現地調査や人物取材の手法などを学ぶ。情報収集能力の向上と、集めた情報を編集・加工して論文などの自己表現に活かせるようなスキルの獲得を目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1「文献目録の作成」

芸術文化に関するテーマを設定し、それに関する文献資料を様々な情報源を活用して収集し、書誌データを整理して文献目録を作成する。また、テーマ設定から目録完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

○メディア授業課題2「年表（または年譜）の作成」

芸術文化に関するテーマを一つ設定し、それに関する主要事項を盛り込んだ年表（または年譜）を作成する。また、テーマ設定から表の完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

【授業計画】

○講義動画の構成

- 1章 芸術研究リサーチとは何か
- 2章 図書館を知る
- 3章 図書館での資料探索
- 4章 インターネットによる資料探索-1
- 5章 インターネットによる資料探索-2
- 6章 現地調査とインタビュー取材の方法
- 7章 情報活用のための整理と編集加工

・講義動画の終了時に「学習チェック」を受け、全問正解したあとにメディア授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
- ・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考

芸術文化学科芸術研究コース 1年次必修科目。同コース 2年次編入生は 2年次に、3年次編入生は 3年次に履修すること。
推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究特殊講義 I						
授業コード	3300	授業科目名	芸術研究特殊講義 I			担当者	田村裕教子 二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

[概要] 造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
[目標] 造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題

課題 パブリックアート：地元地域等の駅前、公園、街路、公共施設等に設置されている、絵画・彫刻等の作品の作者・作品名・作品形態・制作年・状態・経緯等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
 1. パブリックアートとは何か。
 2. パブリックアートの現在
 3. パブリックアートの調査と報告
 4. パブリックアートを考える
- ・調査成果のWEBキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver.12 (Word 2007) 文書またはMicrosoft Excel Ver.12 (Excel 2007) ブックを閲覧・編集・保存できること。
- ・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。

○備考

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究学 II						
授業コード	3310	授業科目名	芸術研究学 II			担当者	田村裕子 金子伸二 教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可)						

【授業の概要と目標】

〔概要〕美術史学における作品研究の方法を参考として、造形作品が様々な要素によって構成された複雑な構造体であることを理解し、作品を資料としてその多様な意味を読み解くための基礎的な能力を養う。

〔目標〕造形作品の特徴を、物理的な側面と精神的な側面とに分けて説明できること。

【課題の概要】

課題1 [レポート] 鑑賞した美術作品のスケッチとディスクリプションを行う課題。

課題2 [レポート] 鑑賞した美術作品から作者の感覚や判断を推察する課題。

【授業計画】

教科書により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

(主な内容)

- ・西洋美術史入門 (美術史へようこそ／絵を「読む」／社会と美術／美術の諸相／美術の歩み)
- ・西洋美術史入門 (実践編) (ひとつの作品をじっくりと読んでみよう／美術作品の何を見るか—一次調査と「主題と社会」／さまざまな視点—美術品と社会の関わりをみる実践例から／まとめ—より深い鑑賞のために)

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

池上英洋 著『ちくまプリマー新書 174 西洋美術史入門』(筑摩書房、2012年)

池上英洋 著『ちくまプリマー新書 212 西洋美術史入門 (実践編)』(筑摩書房、2014年)

○学習指導書

『芸術研究学II 2021年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年)

【その他】

科目名	芸術研究コンセプション						
授業コード	3320	授業科目名	芸術研究コンセプション			担当者	田村裕子 教授、 金仲白 教授、 二井新太郎 講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

〔概要〕 ロジカル・シンキングやクリティカル・シンキング、様々な発想法など、芸術文化に関する研究・活動に向けて独自の観点を立てるための手法を学ぶ。

〔目標〕 芸術文化に関するテーマを発見し、解決に導く発想力や、観察と解説・分析力、論理的に筋道を立てて考える力を錬成することを目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1

一つの造形作品を取り上げ、その作品について書かれた紹介、解説文や批評などを2つ以上読み、相互の論点や論理の展開などを「比較検討」する。

○メディア授業課題2

自分の推薦する造形活動や作品を効果的に紹介・推進するための問題点を見出し、授業で解説されている発想法や思考ツールを使って改善や解決のアイデアを探る。

【授業計画】

- ・講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 芸術研究コンセプションとは何か
- 2章 課題発見から解決までの道筋
- 3章 考える技術～ロジカル・シンキング
- 4章 クリティカルに読み解く
- 5章 問題点を発見し、解決に導く発想の技術
- 6章 先行研究から学ぶ
- 7章 生活環境や場の観察を通じた気付きの方法
- 8章 研究テーマの発見へ

【成績評価の方法】

メディア授業課題（Webレポート）の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：2年次～

○履修条件：芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・ Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・ 作成データをPDFファイル形式に変換できること。
- ・ PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究特殊講義 II						
授業コード	3330	授業科目名	芸術研究特殊講義 II			担当者	田村裕教 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

[概要] 造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
[目標] 造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題

課題 郷土玩具の魅力と現代社会：郷土玩具を見たり入手したりできる場所を探し、造形観察による特徴の把握と作品記録を行うとともに、郷土玩具名・産地・材料・寸法・発祥・用途・販売（頒布）地・製造法等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。さらに、調査した郷土玩具を題材としたレポートを作成する。

【授業計画】

- ・テーマと調査・報告の方法に関する講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 郷土玩具とは
- 2章 郷土玩具の現在
- 3章 郷土玩具の調査・記録と報告
- 4章 郷土玩具の魅力と社会との関わりを考える
- ・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：2年次～

- 履修条件：芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
- インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
- 具体的な必須要件は以下のとおり。
- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver. 14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver. 14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。
- ・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	デザイン総合研究 I						
授業コード	3420	授業科目名	デザイン総合研究 I	担当者	上原 幸子 教授、河野 純一 講師、保風 純一 講師		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『自分を可視化する』
デザインを学ぶ者にとって、アイデアを生み出していく過程で、自分が持っている引き出しの確認作業が必要になることが少なくない。自分の発想がどこからくるのか、自分は何に興味関心があるのか、今後何をしたいのか、その理由と展望について、自分の視点を確認できる情報ソースとして、周辺情報の整理と可視化を試みる。

【課題の概要】

課題名 『マイデータグラフィックス』
自分を客観視することを目的に、自分年表を用いて自分のこれまでをビジュアライズした情報ツールを制作する。それらは、自分を取り巻く社会環境を、時間軸と関係軸で表すデータグラフィックスである。

【授業計画】

①自分情報を表にまとめる
たくさんの情報を整理するには、テキスト化する作業は欠かせない。まずひたすら書き出して検証していくことから見えてくるもの、導き出した方向性を確認していくステップとして資料を作成する。

②手描きによる自分年表の作成
自分を取り巻くさまざまな社会環境を俯瞰しながら、時間軸を用いて記憶の中にある自分情報を可視化する作業を行う。記憶として切り取られた情報だからこそ、手描きでしかビジュアライズすることはできない、自分の頭の中にある引き出しを整理し、確認できるツールを作成する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

履修年次
1年次～

履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

備 考
なし

【教材等】

教科書
渡邊俊博著『考えを整理する・伝える技術 グラフィックレコード』（フォレスト出版 2019年）

学習指導書
『デザイン総合研究 I 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

参考文献
石黒謙吾著『分類脳で地アタマが良くなる 頭の中にタンスの引き出しを作りましょう』（KADOKAWA/角川マガジズ 2015年）

科目名	デザイン総合研究 II						
授業コード	3430	授業科目名	デザイン総合研究 II	担当者	清水恒平教授		
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

「図化考察—思考の図化トレーニング」
 デザインにおいては、あらゆる情報や関係性を分析・調査して、分かりやすい形にまとめる（編集する）力が求められる。この科目では、複雑な事象を図にすることによって整理する方法を学ぶ。すべての課題は紙と鉛筆を使用して行う。手を動かしながら頭を整理するための、思考の基本パターンのトレーニングを行います。

【課題の概要】

バブルマップ/ダブルバブルマップ/フローマップ/マルチフローマップなどの基本パターンを使用した20の小課題を行う。

【授業計画】

課題制作のための説明動画の視聴→課題制作→解説動画の視聴を基本のセットとして、合計20の課題を行う。

提出は最後にまとめてPDFファイルにして Web 提出する。

課題を行う際に使用するフォーマットのダウンロードやプリントアウト、提出の際のスキャニングやPDF化については講義動画の中で説明する。

【成績評価の方法】

メディア授業の中で制作した作品（PDFにて提出）の総合評価

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

「デザイン総合研究 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

デザイン総合コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下の通り。

- ・PDFファイルが閲覧できること。
- ・スキャンができること。
- ・スキャンデータをまとめたPDFファイルへの変換ができること。
- ・Web提出ができること。

○備考

デザイン情報学科デザイン総合コース必修科目。

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン総合研究 III						
授業コード	3440	授業科目名	デザイン総合研究 III			担当者	牧野良三、明村野中、村梨枝子、師智子、講義奥澤小
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

我々の暮らしを支える都市機能は、我々の求めに応じ様々な工夫がなされ、我々の暮らしを支えている。その重なりが街の個性となり、魅力となっている。

ここでは、人と空間と造形の関係性を街の調査を通して明らかにし、その手法を学ぶことを目的としている。集い、憩い、楽しむ、といった都市空間に見られる様々な出来事を、観察を通して読み解き、それらを可能にする工夫がどのようになされているか、空間デザインの考え方をもう一歩進めて、提案に至るまでの基本的なプロセスを学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「デザインサーヴェイから学ぶ」
デザインサーヴェイを通して、都市空間の実態とその演出性を客観的に読み取り、その結果をデザイン的に表現する。

【授業計画】

第1日 課題説明 現地調査とワークショップ
第2日 現地調査とワークショップ 作品制作
第3日 作品制作
第4日 作品制作 発表

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ・Ⅱ」の単位習得または同時履修。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン総合研究 IV						
授業コード	3450	授業科目名	デザイン総合研究 IV			担当者	白尾隆太郎 教授、講師、 幸橋早苗 講師、齋藤 太
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

○授業テーマ「メディアを考える／メディアで遊ぶ」
私たちのコミュニケーションを成り立たせている多様なメディアとメディア環境を広く捉え直し、新たなメディアの思考と実践へと繋げることを目標とする。たとえば、メディアを取り巻く環境としては、社会体制・経済・産業・科学・技術・歴史・文化・思想・教育等があり、これらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくっていると考えられる。フィールドワークを通して現在のメディア環境を広く考察し、自らの手で実践的に新たなメディアの制作と提案を試みる。

【課題の概要】

○面接授業課題「メディアの発明」
「メディアで遊ぶ」をキーワードに、ワーキンググループで身近な環境のフィールドワークを行いながら、メディアとメディア環境の多様性と可能性を多角的に観察、考察する。授業の共通テーマは「水」とし、「吉祥寺周辺・井の頭公園」を考察のフィールドとする。フィールドワークをもとに、個人制作で「新たなメディア」のプロトタイプを試作し、プレゼンテーションでは「メディアで遊ぶ」の実践と提案を試みる。

【授業計画】

○面接授業課題「メディアの発明」
具体的な授業進行については、授業初日にオリエンテーションを行う。
・1日目：オリエンテーション、ミニワークショップ、フィールドワーク、グループディスカッション
・2日目：フィールドワーク、個人制作
・中間期間：個人制作、オンラインプラスによる指導
・3日目：個人制作、仕上げ、プレゼンテーションの準備
・4日目：プレゼンテーション、講評、ふりかえり

※オンラインプラス [中間] - Facebookグループを使用し、オンライン上で制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

【成績評価の方法】

制作した作品と提案内容、プレゼンテーションを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境、Facebookのアカウントが必要となる。

【教材等】

なし

【その他】

○面接授業課題「メディアの発明」
授業前半にワーキンググループ（5名程度）で吉祥寺周辺・井の頭公園のフィールドワーク、およびディスカッションを行う。

科目名	情報形成デザイン I B						
授業コード	3500	授業科目名	情報形成デザイン I B			担当者	白尾太郎、尾隆子、教貴野師、野呂和麻、弘多美、子崎
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『タイポグラフィとダイアグラム』
 文字を組むことは、意味に形を与えることでもある。文字組すなわちタイポグラフィにおける視覚的側面を考察しながら、言葉と視覚表現の関係を考える。グラフィックデザインにおける紙面のレイアウトは、デザインの構造を決める重要な要素と言える。その骨格をなし文字組の原理を理解し、デザインを構造的に構想できる力を養う。

【課題の概要】

○課題 1 「文字組」
 あたえられた文章にタイトルを付け、コンピュータを使って組版、文字組として完成させる。

○課題 2 「ダイアグラム」
 俳人小林一茶の歴史や生様を資料をもとにデザインする。

【授業計画】

○課題 1 「文字組」
 オンラインプラス [準備] で前提講義を自宅で視聴する。
 ・「組版 1 ーいろはの文字」「組版 2 ー銀河鉄道の夜」「組版 3 ー天声人語」という3つの組版に取り組む。
 ・講評会

○課題 2 「ダイアグラム」
 オンラインプラス [準備] で前提講義を自宅で視聴する。
 ・事前に考えてきた計画について教員と面談する。
 ・資料を調べる。
 ・コンピュータを使ってダイアグラムを制作する。
 ・講評会

※オンラインプラス [準備] 一事前説明動画配信
 Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 2年次～

○履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
 「デジタル造形基礎 I・II」「デザイン基礎 IA・B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン II A						
授業コード	3510	授業科目名	情報形成デザイン II A	担当者	清水恒平教授、植木基一郎講師、博川修一講師		
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	デザイン総合コース選択必修科目						
授業形態	通信授業 (Web提出)						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門 1」
 大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
 プログラミング言語はProcessingの使用を推奨する。

【課題の概要】

- 〔課題 1〕 オープンデータ、APIによるデータの取得方法の調査
 〔課題 2〕 外部データを利用した情報表現

課題 1 では私たち個人が使用できるデータにはどんなものがあるのサーチを行う。
 課題 2 ではそれらのデータを使い新しい価値を見いだせるような作品を制作する。

【授業計画】

学習指導書『情報形成デザイン IA・IIA 2021年度』に沿って通信課題を制作し提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
教科書は「デザイン基礎 IIA」と同じものを使用する。この教科書の第8章までの内容は習得済みであることを前提のため、その内容を理解していないものは第1章から第8章を熟読し、十分に理解した上で受講すること。

【教材等】

○教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』 (オライリージャパン 2011年)

○学習指導書
『情報形成デザイン IA・IIA 2021年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年)

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン II B						
授業コード	3520	授業科目名	情報形成デザイン II B	担当者	清水恒平教授、植木基一郎講師、博川修一講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	デザイン総合コース選択必修科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門 2」
 大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
 プログラミング言語はProcessingを使用する。また、データベースはSQLiteを使用する。

【課題の概要】

【課題】 データベース (SQLite) を利用したビジュアライゼーション

【授業計画】

(前半2日間)
 ・UNIXコマンドの基礎
 ・SQLコマンドの基礎
 ・課題の説明

(オンラインプラス中間)
 ・課題の計画書を提出

(後半2日間)
 ・課題の制作

※オンラインプラス [中間] -BBS上での中間アドバイス
 Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 2年次～

○履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
 「デザイン基礎 II A」で学習する程度の (Processingの) プログラミング技法を身に付けていること。
 具体的にはsetup関数とdraw関数の役割の違い、変数、if条件文、forループ文などをある程度理解していることを前提としている。
 知識を満たしていないと思う者は「デザイン基礎 II A」「デザイン基礎 II B」から受講すること。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献
 Casey Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』 (オライリージャパン 2011年)

科目名	環境形成デザイン I A						
授業コード	3580	授業科目名	環境形成デザイン I A	担当者	牧野良三 教授、 樹谷智 講師、 桜井富 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ー機能と造形ー

我々が暮らす生活環境を、環境形成デザインという新しい領域概念で捉えると、「身体性に基づいた機能を作り出す技術（テクノロジー）」と「体験から生まれる情報を共有する方法（コミュニケーション）」という言葉が導き出される。これは、ヒト、モノ、コトという従来の立体・空間デザイン領域のキーワードを、我々の暮らしに即して具体的な言葉として導き出された言葉である。環境形成デザイン I Aでは、身体性に基づいた機能について身近な道具を例に、その使い勝手や形態について考察する。また、身近な空間デザイン（店舗、ブース）を例に、発信者と受信者の関係をインターフェイスをキーワードに考察する。領域を構成する「モノ」と「空間」の両面から考察することで、ものづくりに必要な基礎的な考え方を包括的に学び領域の理解を深めることを目標としている。

【課題の概要】

ものづくりの前提となる「身体性と機能」、「体験から生まれる情報」（UI/UX）それぞれに考察し、その結果を報告する。

○通信授業課題1

道具と機能の関係を考察し、その結果をスケッチとレポートでまとめ、提出する。

○通信授業課題2

身近な空間のインターフェイスの事例を選び、その実態を調査しレポートにまとめる。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書『環境形成デザイン I A・II A』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『環境形成デザイン I A・II A』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

【その他】

科目名	環境形成デザイン I B						
授業コード	3590	授業科目名	環境形成デザイン I B	担当者	牧野良三 樹像重幸 教授、講師、 画像重幸 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ー機能と造形ー

我々が暮らす生活環境を、環境形成デザインという新しい領域概念で捉えると、「身体性に基づいた機能を作り出す技術（テクノロジー）」と「体験から生まれる情報を共有する方法（コミュニケーション）」という言葉が導き出される。これは、ヒト、モノ、コトという従来の立体・空間デザイン領域のキーワードを、我々の暮らしに即して具体的な言葉として導き出された言葉である。環境形成デザイン I Bでは、「機能と造形」の関係を、具体的な機器の制作を通して学習する。道具の用途や構造、人の動作と形態といった機器デザインに課せられる要件を包括的に体験することで、領域の理解を深め表現方法の習熟を目指す。

【課題の概要】

○面接授業課題 [ドアノブのデザインとモデル制作]

・面接授業ではドアノブの操作性、認知性、快適性を探索し、スケッチによるイメージの表現からモデル制作までの具体的な形態にまもめ上げるプロセスとスキルを学ぶ。

【授業計画】

○面接授業

・発泡ウレタンでラフイメージモデルを制作してから、決定モデルの制作を行う。

第 1 日 前提講義・課題説明、イメージラフモデル制作

第 2 日 イメージラフモデル制作、決定モデルの概略三面図の作図

第 3 日 モデル制作

第 4 日 モデル制作、プレゼンテーション、講評

・複数のアイデアモデルでデザインを検討し、最終案を制作します。

・当日はアイデアスケッチから展開しますが、事前に身の回りにあるドアノブに触れて、ある程度イメージを固めておくこととスムーズに進めることができます。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	環境形成デザイン II A						
授業コード	3600	授業科目名	環境形成デザイン II A	担当者	牧野良三 一史 講師、森博子 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ーコミュニケーションを促す形ー

我々の生活を支える生活環境は、住環境を起点に、我々の社会的な成長とともにその幅を広げていく。これは、我々が社会生活を営む上で、段階的に獲得していく環境の厚みに他ならない。視点を変えて、環境を、我々が暮らす上で意識や行動に直接的、間接的に影響を与える存在として捉える時、その利用の仕方は多様であり、また様々な形態をとることになる。環境デザインIIAでは、身近な環境をコミュニケーション機能を有した機能空間として捉え、そこで起こる様々な出来事を調査、分析を通して考察する。「ヒト」との関係を中心に「モノ」と「コト」を捉え直し、環境を形成する要素（立体・空間デザイン）について理解を深め、デザイン行為の手法を学び、その可能性を探る。

【課題の概要】

指定された課題図書を選び、内容を要約して、身近な環境（商店街）を調査した結果をレポートとして提出する。（課題図書を選ぶ際には、自らが進む領域を考慮することが望ましい）

○通信授業課題1

指定された課題図書を読み解き、その概要をコメントとしてまとめ、その後、課題図書の手法に倣い身近な商店街を調査し、対象とする機器や空間に対する課題やテーマをまとめ、その成果をレポートとして提出する。

○通信授業課題2

通信授業課題1でまとめた課題やテーマに対する構想案を示し、その成果をまとめ、提出する。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『環境形成デザインIA・IIA』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

【その他】

科目名	環境形成デザイン II B						
授業コード	3610	授業科目名	環境形成デザイン II B	担当者	牧野良三 一史 山本博 子 史子 講師 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ーコミュニケーションを促す形ー

我々の生活を支える生活環境は、住空間を起点に、我々の成長とともにその幅を広げていく。これは、我々が社会生活を営む上で、段階的に獲得していく環境の厚みに他ならない。視点を変えて、環境を我々が暮らす上で意識や行動に直接的、間接的に影響を与える存在として捉える時、その利用の仕方は多様であり、また様々な形態をとることになる。環境デザインII Bでは、指定されたミニパークをコミュニケーション機能を有した機能空間として捉え、我々の行為と環境の関係について考察する。また、新たな提案に向けて (プレゼンテーション)、問題抽出の力 (テーマ)、提案に至る思考の力 (コンセプト)、実装する力 (デザイン) というデザイン行為の基本となる知識と技術の重要性を認識し、その習得を目標としている。

【課題の概要】

指定された公園の周辺環境、土地の記憶、成立の背景などを考慮して新たなテーマ、コンセプトを設定し、提案する。課題制作にあたっては、自らが進む領域からの問題提起であることが望ましい。

【授業計画】

[面接授業4日間]

- 前半 第1日目 指定された公園 (ミニパーク) を各自が調査。
結果を持ち寄りグループ討論
- 第2日目 独自のテーマ、コンセプトの作成
中間発表
- 後半 第3日目 機器のデザインまたは空間のプランニングの制作、提案
(テーマ、コンセプトを起点に)
- 第4日目 機器のデザインまたは空間のプランニングの制作、提案
発表 講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

学外実習、グループワークがある場合がある。

科目名	社会形成デザイン I A						
授業コード	3670	授業科目名	社会形成デザイン I A	担当者	上原 幸子 教授、山田 翔 講師、江澤 太 講師、太 澤 勇 介 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

目の前にあるのに見えていないこと、見えているのに気づかないことなど、身近にある宝を再発見し、気づくことの大切さを学ぶ。自分では気づきにくいことに光を当てるためには、まず気づいていないと認識することがスタートとなる。自分周辺の第一次情報の貴重さを、可視化をとおして実感し、ソーシャルデザインが目指すべき方向性と自らの足掛かりを見つけることが、この科目の大きな目標である。

【課題の概要】

第1課題では、自分を1個の生態と捉え、その周辺環境を見つめ直す装置として、他者との対話を元に絵地図づくりを行う。第2課題では、「選択」のメディアである写真の特性を生かし、体験的に集められ切り取られる視覚情報を編集することをとおして、日常の中にあるまちの再発見を目指す。

【授業計画】

〔課題1〕わたしの生態環境マップ
自分を取り巻く環境を俯瞰できる絵地図を作成する。
日常何気なく過ごしているフィールドを可視化する装置づくりをとおして、見えていなかったことの掘り起こしと気づきの重要性を体験する。
制作のプロセスで、他者とのディスカッションを行い、ビジュアルレポートとしてレイアウトしてまとめる。

〔課題2〕ソーシャルレンズ
「見る・観る・視る」の違いを、組み写真として編集し可視化する。
〔課題1〕の絵地図に盛り込まれた地域情報から、まちの特色、地形、歴史、人々の生活、文化、時間の経過によって変化したもの・新しいもの、地域の大事にしていること、発見したことなど、関心事を抽出しテーマを導き出す。
まち探検をして取材を試みるのもひとつの手段。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン情報学科デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
MacintoshまたはWindowsで、編集作業が可能なソフトウェア (PowerPoint、Word、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorなどいずれか) を使用する。

【教材等】

- 教科書
『地元を再発見する！手書き地図のつくり方』（手書き地図推進委員会編著 株式会社学芸出版社 2019年）
- 学習指導書
『社会形成デザインIA 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021年）

【その他】

○参考文献
乾久美子+東京藝術大学 乾久美子研究室 編著『小さな風景からの学び～さまざまなサービスの表情』（TOTO出版 2014年）

科目名	社会形成デザイン I B						
授業コード	3680	授業科目名	社会形成デザイン I B	担当者	上原幸子教授、朝比奈り講師、堀田陽子講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ソーシャルデザインのリテラシーとして、人ごとではなく自分ごととしての意識の獲得を前提としたい。プリミティブな発想や思いを出発点に仮説を立て、新たなプロジェクトの提案を試みる。デザイン思考+思いをカタチにするビジョンを組み立て、必要な要素を抽出するプロセスと、人に届く言葉や共感を生むためのスキルの獲得を目指す。

【課題の概要】

「ビジョン物語」
 出会いや交流を生む地域の居場所プロジェクトを企画する。身近な社会課題への具体的な提案をとおして、他者へのまなざしと他者からのまなざしをあらためて認識する。
 背景、動機、必要性などを説明するのではなく、説得力あるストーリーと演出を考え、ビジュアルコミュニケーションメディアを制作する。

【授業計画】

※ [準備] —
 Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて事前リサーチの解説

(前半)
 グループワーク
 ・居場所とは何か、自分発という感覚の確認
 ・居場所発想ゲーム：他者へのまなざし、他者からのまなざしに気づく
 個人ワーク
 ・スキルサポートレクチャー：物語化、編集軸をたてる、組み立てる
 ・ビジョン物語「あったらいいな！こんな居場所プロジェクト」のサムネール制作
 ・中間発表

※ [中間] —
 Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作素材の解説

(後半)
 個人ワーク
 ・スキルサポートレクチャー：PC操作、演出効果、フォーマット
 ・ビジュアルコミュニケーションメディア、シナリオブックの制作
 ・編集と伝わる演出の工夫
 ・プレゼンと講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 2年次～

○履修条件
 デザイン情報学科デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
 初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
 スクーリングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

面接授業について：グループディスカッション・発表を行う。

○参考文献
 『居場所づくりがきょうまくいくハンドブック』（東京ボランティア、市民活動センター 2016年）